

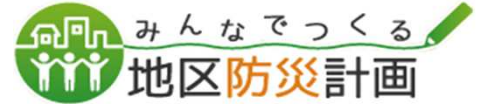
版瓦塾結災防驛飛南



目次

- P-2 ・下呂地域消防関係者合同研修会 ・「避難準備情報」の名称変更
 P-3 ・こども園児が命を守る訓練 ・女性防火クラブが防災紙芝居 ・気象用語で云う時間の表現
 P-4 ・おらんとこの自主防災(萩原上区自主防災会の街頭消火器) ・編集後記(消火器を玄関に…)

小坂町落合区が、内閣府地区防災計画モデル事業



平成28年度は、全国で7地区が選出され、落合区は11月から3月にかけて、5回の協議を重ね地区防災計画の作成を始めました。

名古屋大学阪本真由美準教授の指導のもと、ワークショップなどは始めての人が多く戸惑いながらも地区の特徴や災害時の課題点などを、防災士でもある中谷区長を中心に真剣に協議を行いました。中谷防災士区長は「良い機会と考える、地区の防災力がこれを機会に高まる」と話されていました。

落合地区におけるハザード

- ☆ 土砂災害(住居地域のほとんどが警戒区域内)
- ☆ 地震(猪鼻断層帯の小坂断層に近い)
- ☆ 洪水(4本の河川が合流する事から警戒が必要)
- ☆ 火山(融雪型 火山泥流到達地域)



第1回(11月27日)「地域を知る」

- ・地区防災計画に対する説明
- ・講演「地域力を防災に活かす」
- ・ワークショップ「地域の特徴・災害リスクの洗い出し」

第1回での課題

- ・地域の高齢化による人材不足
- ・土砂災害に対する危機感
- ・災害による地域の孤立化
- ・地域活動の衰退



第2回(12月10日)「避難を考える」

- ・避難行動訓練キット(EVAG)
- ・ワークショップ「土砂災害時の避難行動の課題」

第2回での課題

- ・避難を判断することが難しい
- ・家族を待たせたりして避難のタイミングを逃した。
- ・発信される情報の意味が分からない。
- ・一人では避難できない。

第3回(1月21日)「土砂災害時・地域の特徴」

- ・ワークショップ「土砂災害図上訓練(DIG)」
- ・意見交換会

第3回結果

- ・過去の災害発生場所追加 ・災害時活用資源の発掘
- ・避難場所の洗い出し ・災害時要支援者情報の確認



第4回(2月18日) 「地域での災害時役割分担 ・避難所運営」

- ・ワークショップ「災害時役割分担
避難所運営検討「クロスロードゲーム」

第4回結果

- ・災害時役割分担の実施
- ・避難所での課題を知る
- ・避難所運営を知る



最終日参加者で講師の阪本真由美準教授を囲んで

第5回(3月26日)

防災計画事業に参加して思うこと、これからに思うこと(抜粋)

- ・防災に対する意識が、今までとは違ってきた。
 - ・80戸5班を細分化して、顔の見える5戸程度にしては。
 - ・参加者だけでなく取り組みを、全区民に広めるべき。
 - ・防災計画を作成する過程を大切にすることは如何か。
- 坂本準教授からは「今回の取り組みは防災計画作成の情報収集の段階であり、今後2～3年掛けて地域作りのなかで遊び感覚など工夫をしながら行って」と助言がありました。

（第2回）下呂地域消防関係者が合同研修会

（平成29年3月3日 於：下呂市民会館）

服部市長をはじめ市職員、消防職員、消防団下呂方面隊、自治会、防災士など多数が参加しました。基調講演は、漁船で操業中に被災されて家族との再会や、避難所の運営などの経験をもとに全国各地で講演活動をされている佐藤一男氏が「防災力＝地域力・米崎小学校避難所で起きたこと」と題して講話されました。間合いを取った素朴な語り口は、聴衆を引付け参加者は真剣に聞入っていました。



☆略歴☆ 防災士・津波で100人以上の友人知人を失う。

越前高田市消防団副本部長・米崎小学校仮設住宅自治会長
「NPO桜ライン311」設立に関わる。

（陸前高田の津波到達線174kmに、桜を植えて後世に伝える事業）

☆取り返しのつかない大きな後悔☆

今思えば、防災にチャント取り組んでおけば良かったと考えます。私達は平成元年に総務省が発表した、「今後30年以内に宮城県沖を震源とする、巨大な津波を伴ったM8以上の地震が98%の確率で発生する、と聞いていました。それが23年目に起こってしまった」

それまでは「今日も地震が起きなくてよかったね」と生活していたが、「今日も地震エネルギーが溜まったね、と備えるべきであった」津波の怖さは分っていたし、明治三陸沖地震をもとに作った防潮堤が役に立たない事を知っていましたが、何もしてこなかった。皆さんにこのような後悔をして欲しくない！そんな思いで防災士として活動しています。家庭では家具やテレビ、職場ではコピー機などの固定を是非行って下さい。誰もがわかっていながら、これほど進んでいない防災対策は有りません。

☆下呂は観光に支えられた街☆

高山線の車窓から風景を見て、万一の時は下呂は孤立するかも知れないな！ と思いました。自分の身を守りながら多くの観光客をどうやって守るのか、下呂市の大きな課題ではないでしょうか。

☆米崎小学校体育館の避難所では、均等より平等☆避難所生活のすざましいストレス☆

物資の配分は「均等より平等」です、必要としている方に提供します。物資は見える所に置き、「ある物と無い物」をみんなが分るように心がけました。硬い床の上で寝返りを打つと、知らない人が隣に寝ている！、これだけですごいストレスです。持病の悪化や、高血圧の重症化も多数ありました。



☆仮設住宅に移って、避難住民が孤独にならないように☆

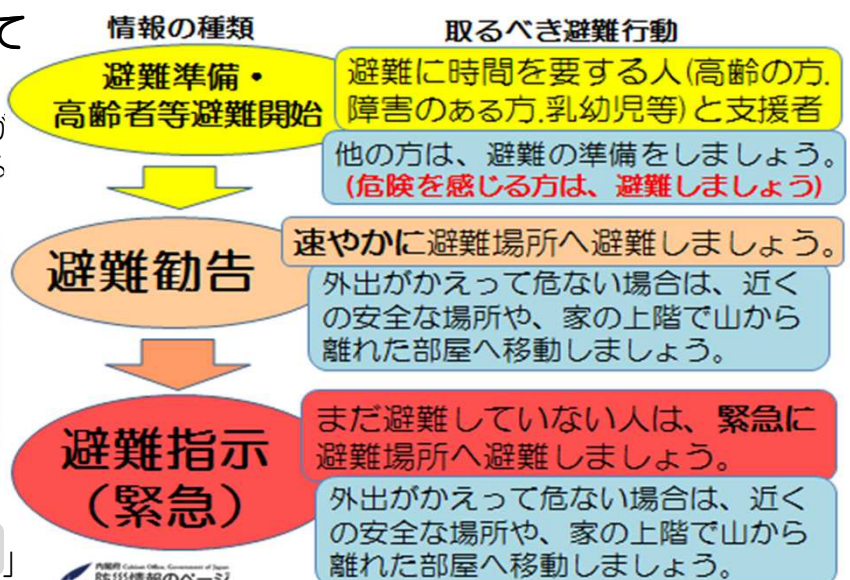
仮設住宅に移り住んでから孤立する人が無いように、各戸でプランターに野菜を作りました。水やりとか手入れに同じような時間に外に出てきます。そこで共通の話題が生まれ交流が始まります。体調を崩したりして2～3日水やりをしないとしおれてくる、近所の人や異変に気付いて訪れたら脳梗塞で倒れていました。幸いにも軽症でしたが、その効果は大きいものがありました。

避難準備情報の名称変更について

平成28年台風10号の水害で高齢者施設で入所者全員が犠牲になり、適切な避難行動が取れなかった。高齢者などが避難を開始する段階を明確にするために改められました。



入所者9名全員が犠牲のグループホーム「楽ん楽ん」



金山こども園児が、**火災**から命を守る訓練。

平成29年3月13日に、火災発生を想定した園児たちの避難訓練が行われました。火災発生を知らせる警報ベルが鳴り響くと、子供たちは防災頭巾をかぶって園室の中央に集まります。保育さんは子供たちを落ち着かせて、素早く人数などを確認し火元を知らせる放送を待ちます。火元は炊事室との放送を聞いて、避難経路などを考えて園児たちを素早く誘導します。ハンカチで口と鼻を覆って2階からは、非常階段を通り、1階は園室から直接園庭へ避難します。命を守る訓練は毎月行っていて、今回は今年度の締めくくりの訓練とのこと。園長先生は子供達に自分の命の大切さと、警報ベルが鳴ってから放送まで少し時間があつたのは「火元が分ってから避難指示を出した」と、園児や職員に説明がありました。



女性防火クラブ員がこども園児に防災紙芝居



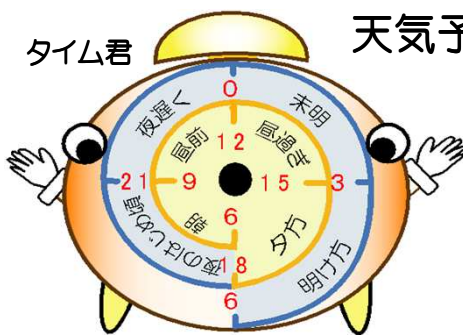
避難行動訓練のあと、遊技室に移動して女性防火クラブ員から、紙芝居を見せられました。たき火の怖さをと、地震が起きたらどうしようを描いた筋書2題。子供たちは迫力のある語り口に、真剣に見入っていました。

また、消防署員から、煙に巻かれないように、シーツを煙に見立てて姿勢を低くして逃げ出す練習をしました。

背中に火が付いたら、手で顔を覆ってゴロゴロの訓練もしました。この子供たちが大きくなったら、防災感性豊かな大人になり地域に防災文化が根付くことでしょう。



タイム君



(気象台提供)

天気予報などで用いる時間の気象用語

24時間を8等分して言い表す気象用語で、私達を感じる時間に違いがないでしょうか。台風の接近時間を未明と聞いて、5時頃と理解する。予報では0時～3時を云っているが、人によっては台風の接近時間を誤って理解し被害に遭うことも考えられます。

左の図をよく見て、自分の時間の感覚との違いを確認しましょう。未明は0時～3時、明け方は3時～6時、朝は6時～9時、昼前は9時～12時、昼過ぎは12時～15時、夕方は15時～18時、夜の始め頃は18時～21時、夜遅くは21時～0時と言い表します。

おらんとこの自主防災（萩原町 萩原上区自主防災会）

活動を始めるきっかけは、文科省の「地震調査研究推進本部」が平成16年12月8日に発表した。

『萩原断層は、国内の活断層の中でも今後30年以内に、地震の発生する確率が4番目に高い』の報告

☆平成17年当時に区内の防災体制を整えるために行った、主な取り組み。

- ・萩原断層の現状説明会を開き、これからの防災活動の協力依頼（区役員 組長 消防団員 防災隊員）
- ・大規模地震発生の危機を全住民に周知するために、広報誌を作成して全戸に配布した。
- ・区執行部が防災台帳の整備を始める。（世帯台帳 要介護者台帳 人材台帳 個人防災資機材台帳）
- ・資機材台帳を基に早期に必要な資機材の整備計画を立て、順次整備する（合併直後で市の助成無し）
- ・年度末に防災計画・規約を作成して、正式に「萩原上区自主防災会」を立ち上げた。

☆平成17年以降の主な防災活動抜粋。

- ・災害図上訓練実施（区役員・組長・自主防災会班長で行い、防災会全員・福祉委・女防・と対象を広げた）
- ・市総合防災訓練のマンネリ化を防止するために、「発災対応型訓練を」取り入れて実施した。
- ・炊き出し訓練で75才以上の方に、子供達の防災メッセージを添えた非常食を配り「防災意識」啓発。
- ・普通救命講習会の実施（現在は10名に1人が認定者であり、将来は5人に1名の目標としている）
- ・福祉委員が高齢者世帯へ個別訪問し、緊急時ホイッスルの配布・避難所や近くの防災人材を紹介。
- ・県の地域防災力強化支援事業として、防災講演会の開催「地震発生72時間の住民の対応」

区内に17ヵ所ある消火栓の脇に街頭消火器を設置。万一の火災発生や、災害時に周辺住民が、協力して素早い防災活動が可能です。平成17年に設置以来、防災会員が随時点検を行っています。

消火器ボックスの内容

この消火器ボックスは、盗難・いたずら防止も兼ねて、**扉を開くと警報ベルが鳴ります。**

10型消火器（2本）

重さが1本約5kgのABC粉末消火器です。放射時間は約15秒間、放射距離は3～6mです。なお、この消火器はストッパー付きですので、ハンドルを放すと消火剤の放射が止まります。

強力ライト

暗がりでの消火作業や災害時（停電時）、暗闇での作業などに使用します。



緊急用呼び笛

火災発生時、大きな声が出せない時や、恐怖感で声がでない場合、この笛で付近の人に発生を知らせ助けを求めます。また、災害時、号令などに使用します。

マグネットシート

災害時、消火器収納箱やホース収納箱を伝言等の掲示板にする際、掲示物を固定します。

消火器配置図

該当消火器の位置周辺の消火器を示す配置図です。

この他、災害時伝言用筆記用具と一緒に区内の防火設備配置図（消火栓・消火器・止水板・水流調整板の位置を示す地図）、大地震発生時の組長・防災隊員の活動マニュアルなどが入っています。

災害時伝言用筆記用具

災害時、伝言等を作成したり、被害状況などの情報を記録する際に使用します。

（編集後記）

- ・萩原上区の防災会長から上記の街頭消火器は、女性防火クラブ員と地震による火災発生の想定でDIGを行っていて提案されたと聞いた。同じ提案で家庭用の消火器置き場所も各々であったが、今では玄関に置いて万一の場合は、家人のみならず近隣の人が持ち出せるようにしているとか。
- ・誌名が長たらくてくどいかなと考え、同意する人もあった。目にした感じで読もうとするかスルーされるかであるが、役員会で検討したが変更しないことになった。読者の皆様のご考察を求めます。また、誌名に限らず忌憚のないご意見をお待ちします。

E-mail tuneki-jh2oqm@seiryu.ne.jp ☎090-2578-1601 ラインOK 広報担当 金子恒紀

